

2017年度 学長懇談会の開催について

道経連では、2018年2月15日（木）、京王プラザホテル札幌において、「2017年度 学長懇談会」を開催した。本懇談会は人口減少問題や地方創生に向けて大学間・産学連携強化を目的とした情報交換の場として開催しているものである。

今回は「AI・IoTを通じた産業振興に向けた取り組みについて」をテーマに、高橋会長および4名の副会長と、5大学の学長または副学長にご出席いただき懇談を行った。

冒頭、当会の2017年度事業の取り組みのうち、主に委員会・プロジェクトチーム活動について報告した後、今年度から産学連携を生み出すための施策として新たに行った「大学シーズ発見ツアー」の実施内容について報告した。

懇談では、テーマに沿った各大学の取り組みについて発表していただいた後、意見交換を行った。

北海道大学の名和総長から、北海道の食料品輸出額が増加傾向にある一方、人口減少による農業就業者の担い手不足・高齢化などの問題に触れられ、AIやIoTを活用した農業機械のロボット化により超省力化・大規模化を図り生産性の向上を図るとともに、AIを活用して収穫時期予測等を行う営農支援システムの開発・導入による収益向上を目指すという、農業のロボスタ化に向けた「フードバレー構想」についてご説明いただいた。



続いて、AI・IoTを活用した研究事例として、室蘭工業大学の空閑学長から、「ICTを活用したサケマス回帰率向上に関する研究」や「アルツハイマー病の予防や治療に有効とされるアミロイドβ凝集阻害物質を効率的に探索できるシステムや治療薬の開発に向けた研究」のご紹介、北海道科学大学 苫米地学長から「AIを用いた医用画像の診断支援システム開発」の概要、「クラウド型遠隔ヘルス・リハビリテーションシステムや熱画像センサーを用いた生活見守りシステム」などの工学・保健医療学・社会科学の融合による新たなイノベーションへの取り組みについてご紹介をいただいた。

また、地域が抱える課題への対応として、北見工業大学高橋学長から「玉ねぎ選果場のAI化に向けた取り組み」と「オホーツク管内の森林の高付加価値化を目指したRF-IDタグの研究」について、帯広畜産大学の井上副学長からは「土壌研究による生産性向上に向けた取り組み状況」についてのお話を伺うことができた。

■意見交換を踏まえ、高橋会長からのご発言

AI・IoTが求められている背景には人口減少問題がある。

今後は人手不足が深刻化していく中、企業では人材育成や確保に加えて、AIとIoTの活用による生産性向上、働き方改革などの取り組みが加速化していく。

一方で、AI・IoTを導入するうえでは技術的な課題も大きく、その課題を解決するうえでも大学の役割はより一層大きいと考える。

経済界としても、本日ご意見として頂いた大学側のニーズにお応えしながら、産学連携をより一層深め、北海道経済の発展に努めていきたい。



■大学からの意見要望

- ・産業界がどのような人材を求めているのか情報が不足している。留学生の中には、日本で働きたいという希望者が結構いるが、産業界が必要としている分野が分からない。
- ・大学の研究テーマとそこから開発されたものと企業を結び付けることを応援できないかと考えており、関心のある企業に協力していただきたい。
- ・大学でビッグデータを作ることは可能であるが、学内で使用できるデータに限りがあり、是非、産業界からデータを提供してほしい。若い人たちにビッグデータを使用した教育ができるチャンスを頂きたい。

《開催概要》

■開催日時 2018年2月15日(木) 15:00~17:00

■開催場所 京王プラザホテル札幌 地下1階「プラザホール」

■出席者(大学側5名、役員9名 計14名)

北海道大学 名和総長、室蘭工業大学 空閑学長、北見工業大学 高橋学長、
帯広畜産大学 井上理事・副学長、北海道科学大学 苫米地学長
高橋会長、小砂副会長、吉田副会長、大西副会長、青山副会長、瀬尾専務理事、
小林常務理事、百瀬常務理事、菅原理事事務局長

■次第

テーマ「AI・IoTを通じた産業振興に向けた取り組みについて」

1. 開会
2. 道経連の取り組みについて
3. 各大学の取り組みについて・意見交換
4. 閉会